

平成27年度  
生駒市市民満足度調査結果  
概要報告

平成27年11月  
生駒市

# 目 次

<b>I. 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査対象 .....	1
(1) 実施時期 .....	1
(2) 調査対象者 .....	1
(3) 調査内容 .....	1
(4) 調査方法 .....	1
<b>II. 調査のまとめ</b> .....	2
1. 市内での定住意向や暮らしの満足度 .....	2
2. 地域活動などへの参加状況<問 6> .....	6
3. 市内施設やサービスに関する満足度 .....	7
4. ひらかれた市政の実現 .....	9
5. 施策の重要度<問 12> .....	11
6. 生駒市の目指す姿の進捗度<問 13> .....	12
7. 市民の役割分担状況<問 14> .....	12
8. 全体のまとめ .....	13

# 1. 調査の概要

---

## 1. 調査の目的

この調査は、第5次総合計画の後期基本計画に位置づけた指標の動向等を把握し、もって適切に進行管理を行うとともに、各施策を推進していくための基礎資料とするため、平成24年度に引き続き、今年度も市民満足度調査を実施した。

## 2. 調査対象

### (1) 実施時期

- ・配布開始：平成27年5月29日（金）
- ・回収期限：平成27年6月15日（月）

※平成27年6月11日に全対象者に礼状兼督促状を送付した。

### (2) 調査対象者

- ・対象者：20歳以上の市民（住民基本台帳から層化無作為抽出）
- ・対象数：3,000人
- ・回収数：1,580人（回収率：52.7%）

### (3) 調査内容

- ・項目数：大項目で14問（枝番有り）、属性調査6問

#### 【アンケート項目】

- ①定住意向とその理由
- ②総合的な住みやすさの満足度
- ③居住の推薦度
- ④生駒市のイメージ
- ⑤誇りの自信度
- ⑥市民の市政参加
- ⑦施設の満足度
- ⑧サービスの満足度
- ⑨市政への関心と関心のない理由
- ⑩意向の市政への反映状況と反映されていないと考える理由
- ⑪市民の意向を市政に反映させるための方策
- ⑫施策の重要度
- ⑬総合計画に示す生駒市の4年後のまちの進捗度
- ⑭総合計画に示す市民の役割分担状況

※設問数が大量になることを考慮し、一部の問（⑬、⑭）をA、B、Cの3つのパターンに分けて作成した。その際、調査対象者の所在地が均等になるよう区分している。

### (4) 調査方法

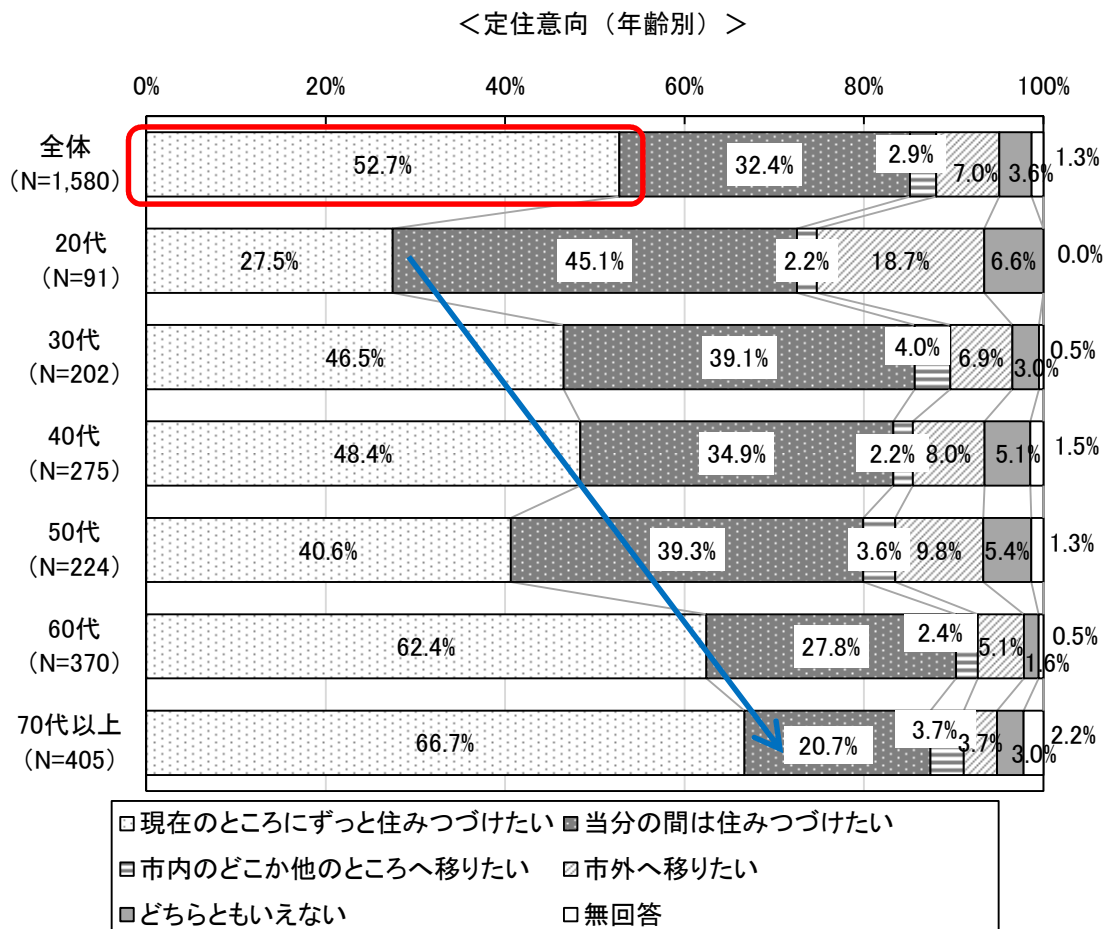
- ・郵送調査方式（郵送にて対象者に調査票を配布し、郵送にて回収する）

## II. 調査のまとめ

### 1. 市内での定住意向や暮らしの満足度

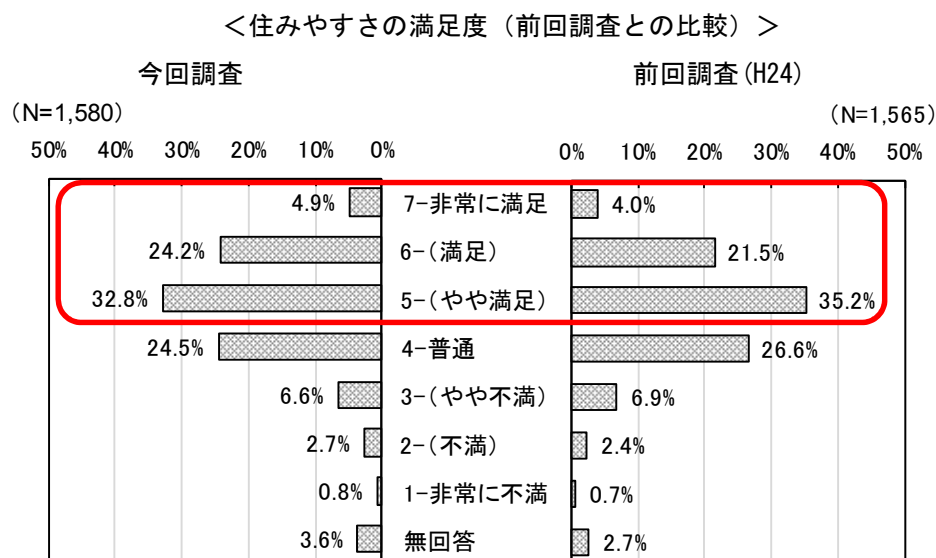
#### 【定住意向】 <問 1>

- ・「現在のところにずっと住み続けたい」がもっとも多く、5割以上を占めており、これに次ぐ「当分の間は住み続けたい」を含めると8割以上となり、定住意向は高いと言える。
- ・年齢別では、年齢が高くなるほど定住意向も高く、「現在のところに住み続けたい」が60歳以上では6割以上を占める。一方、20代では3割を割り込んでおり若い世帯の定住促進が課題となっている。



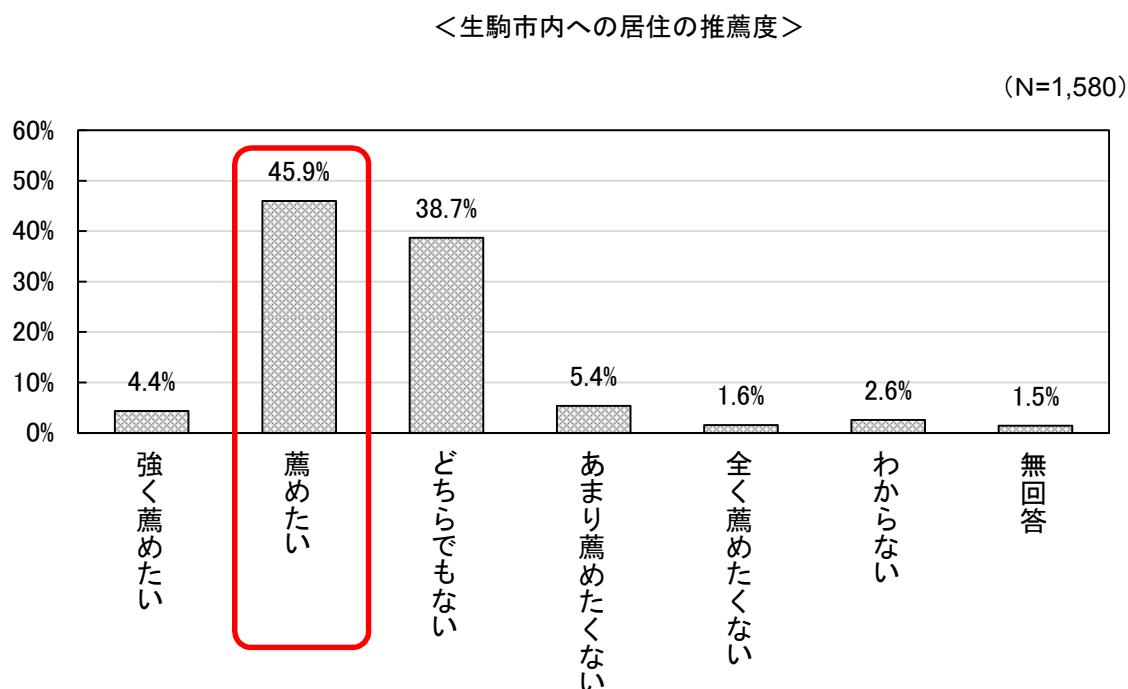
【総合的な住みやすさの満足度】 <問 2>

- ・まちの満足度は、普通よりもやや満足寄りの評価となっている。
- ・前回調査では満足度の高い評価（「非常に満足」+「満足」+「やや満足」）は60.7%であった。今回調査では61.9%に向上し、満足度は微量ながら増加している。



【居住の推薦度】 <問 3>

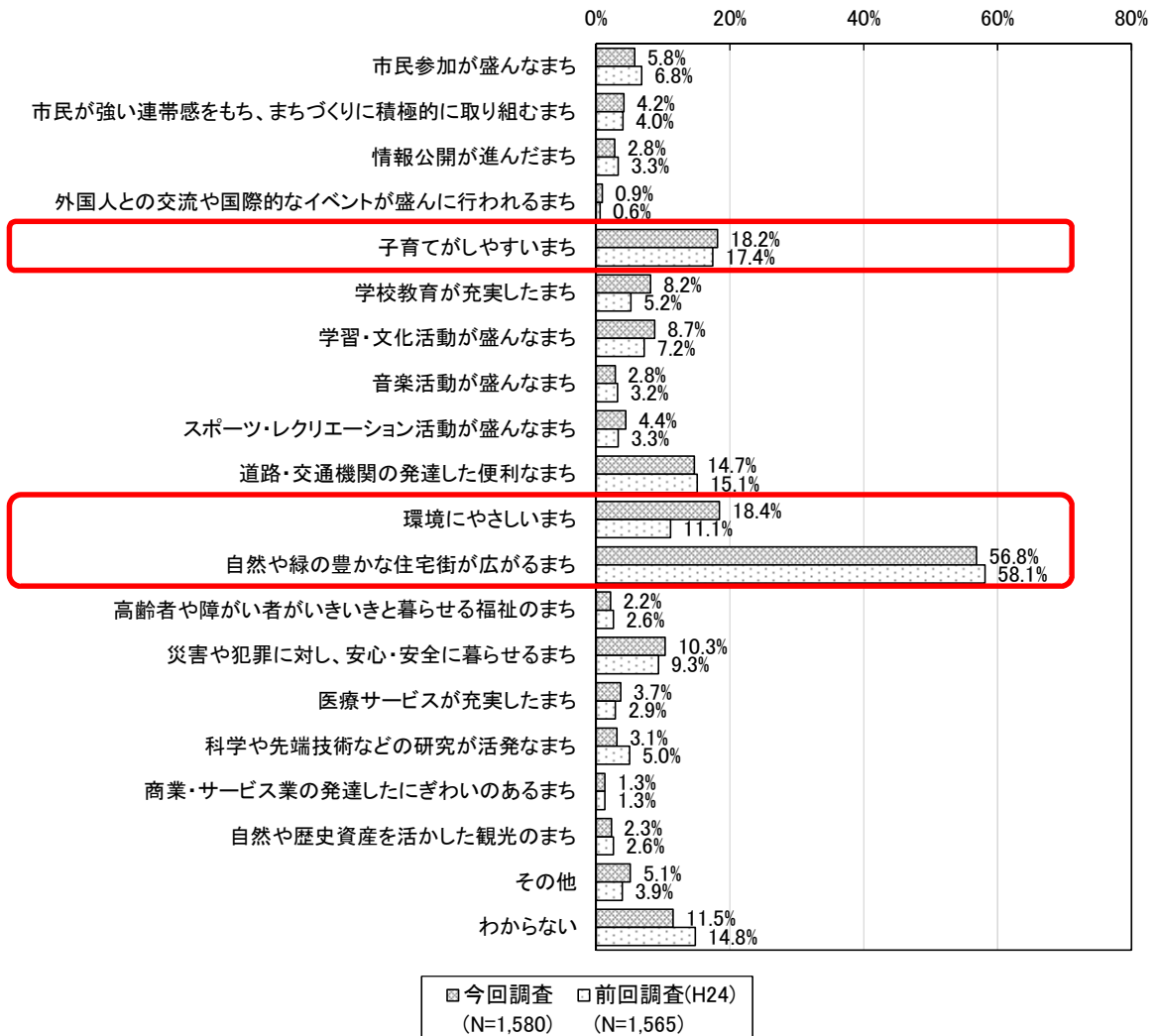
- ・生駒市への居住を知人に「薦めたい」と思う人が5割弱で最も多くなっている。



【生駒市のイメージ】 <問 4>

・「自然や緑の豊かな住宅街が広がるまち」が 6 割弱で突出して多い。次いで「環境にやさしいまち」や「子育てがしやすいまち」と続いている。

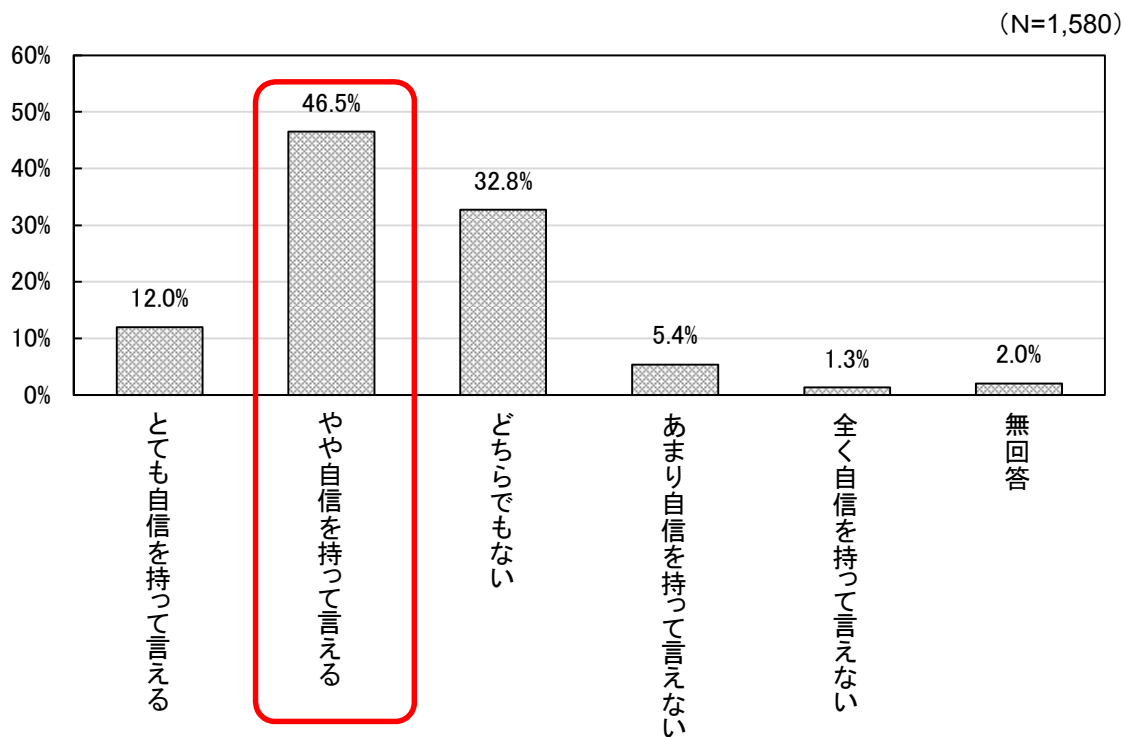
<生駒市のイメージ>



【誇りの自信度】 <問 5>

- ・生駒市に住んでいることに「やや自信を持って言える」が5割弱と最も多く、「とても自信を持って言える」は約1割にとどまっている。

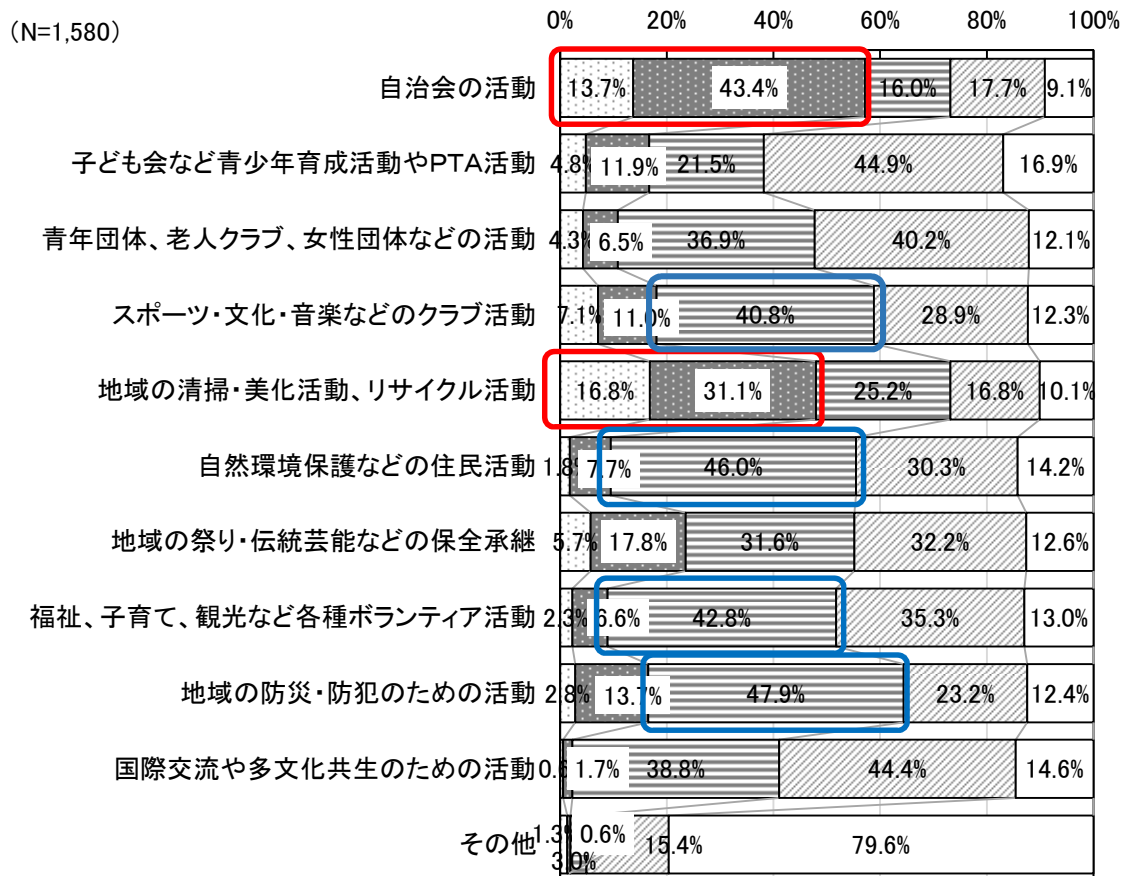
<生駒市での居住に関する誇り>



## 2. 地域活動などへの参加状況<問 6>

- ・「自治会の活動」への参加がもっとも多く、「よく参加している」「時々参加している」の合計が5割を超えている。次いで「地域の清掃・美化活動、リサイクル活動」となっている。
- ・「現在は参加していないが、今後参加してみたい」活動としては、「地域の防災・防犯のための活動」が5割弱と最も多く、次いで「自然環境保護などの住民活動」、「福祉、子育て、観光など各種ボランティア活動」、「スポーツ・文化・音楽などのクラブ活動」となっている。

<地域活動への参加状況>



- よく参加している
- 時々参加している
- 現在は参加していないが、今後参加してみたい
- 現在も今後も参加するつもりはない
- 無回答

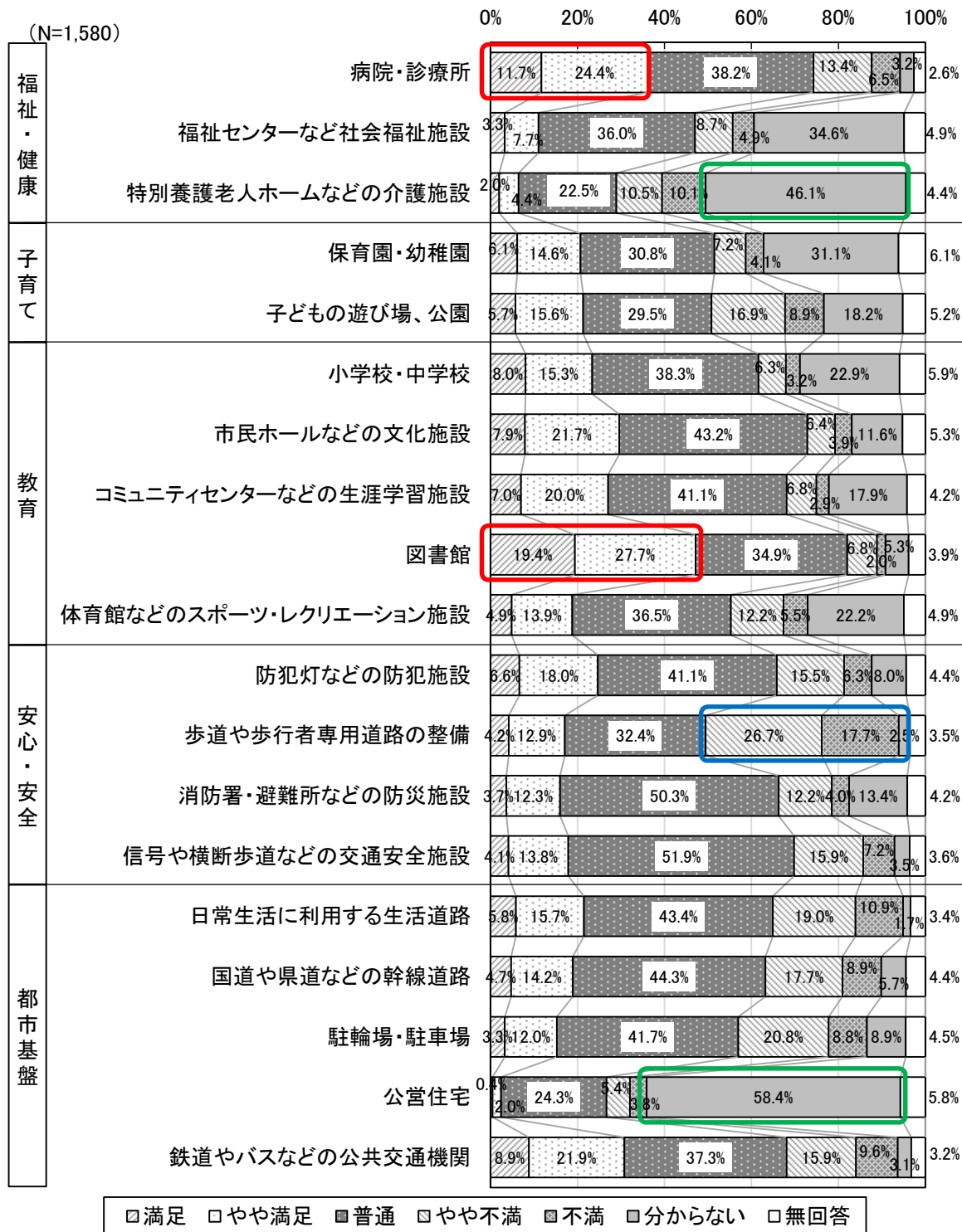


### 3. 市内施設やサービスに関する満足度

#### 【施設の満足度】 <問 7>

- ・満足度が高い施設は「図書館」や「病院・診療所」である一方、満足度が低い施設は「歩道や歩行者専用道路の整備」となっている。
- ・施設の認知度は、「公営住宅」や「特別老人ホームなどの介護施設」などで低くなっている。

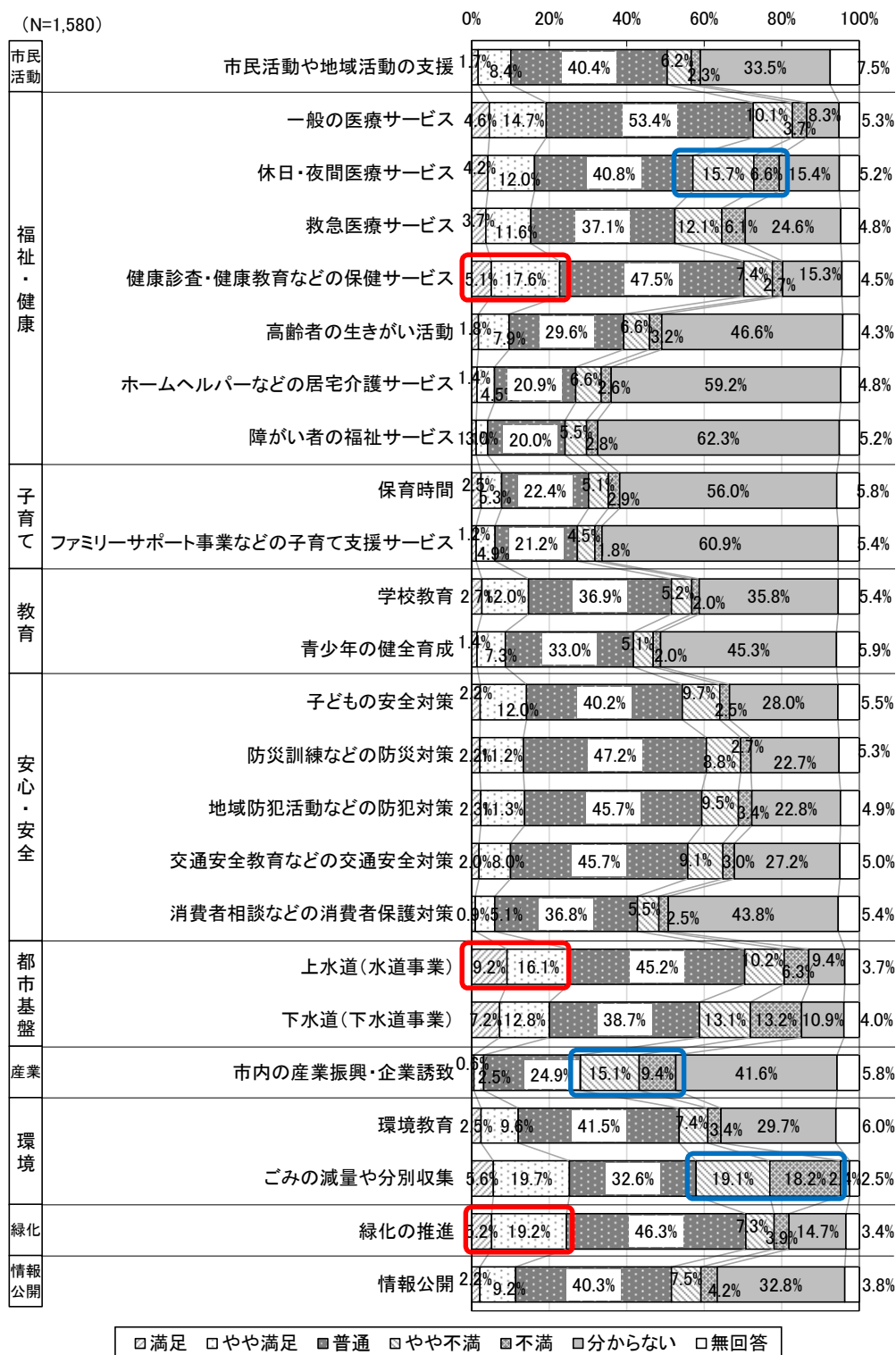
<市内施設の満足度>



【取組やサービスの満足度】 <問 8>

・比較的満足度が高いのは、「上水道（水道事業）」「緑化の推進」「健康診査・健康教育などの保健サービス」である一方、比較的満足度が低いのは「ごみの減量や分別収集」「市内の産業振興・企業誘致」「休日・夜間医療サービス」となっている。

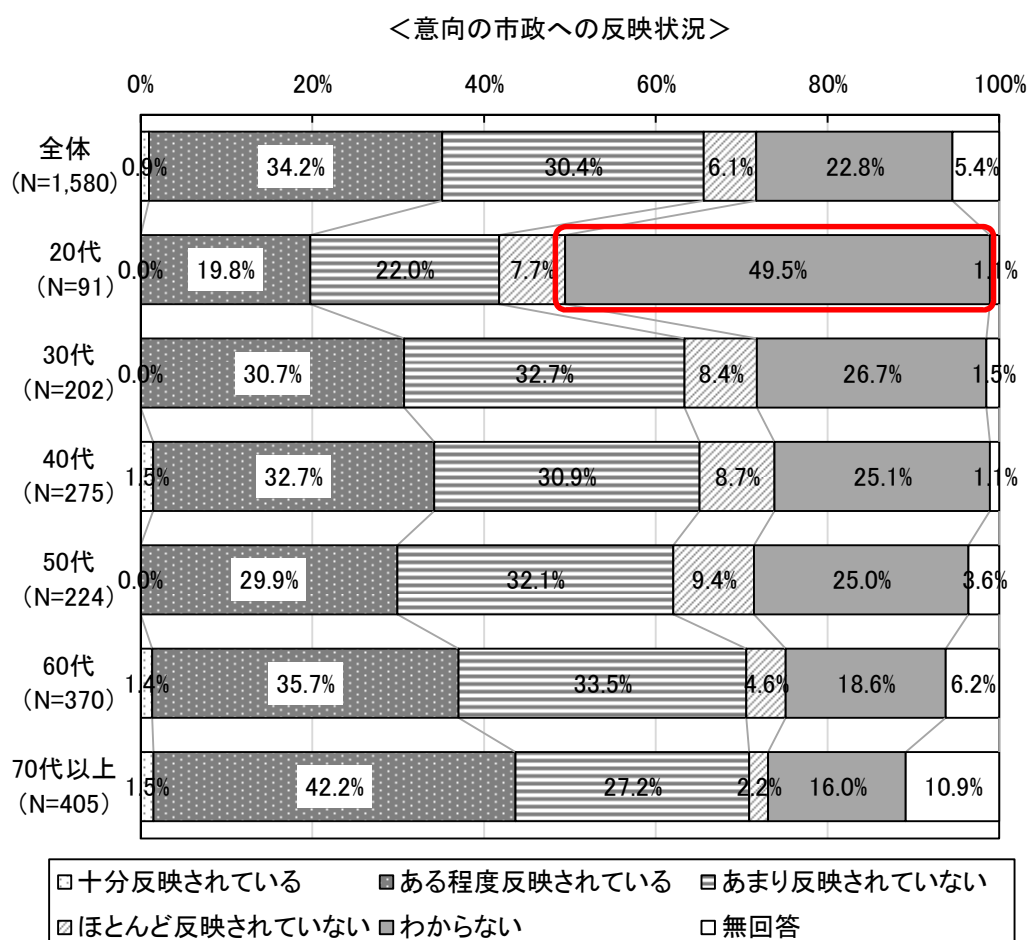
<取組やサービスの満足度>



#### 4. ひらかれた市政の実現

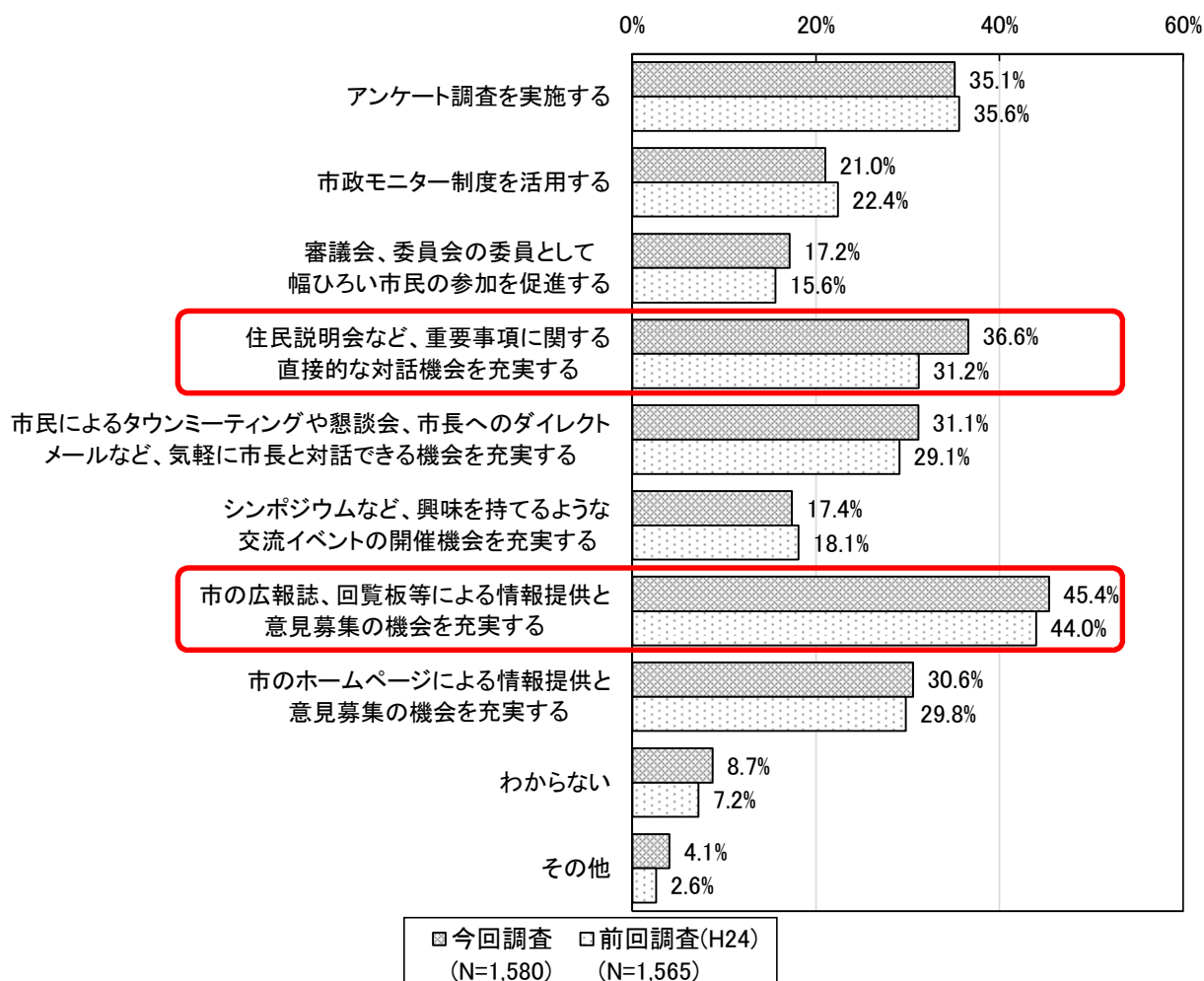
##### 【意向の市政への反映状況】 <問 10>

- ・反映されていると感じている人（「十分反映されている」+「ある程度反映されている」）が、反映されていないと感じている人（「あまり反映されていない」+「ほとんど反映されていない」）を僅かながら上回っている。
- ・20代では「わからない」が最も多く半数程度を占めており、この年代の市政への関心を高めるとともに積極的な情報提供などが課題となっている。



【市民の意向を市政に反映させるための方策】 <問 11>

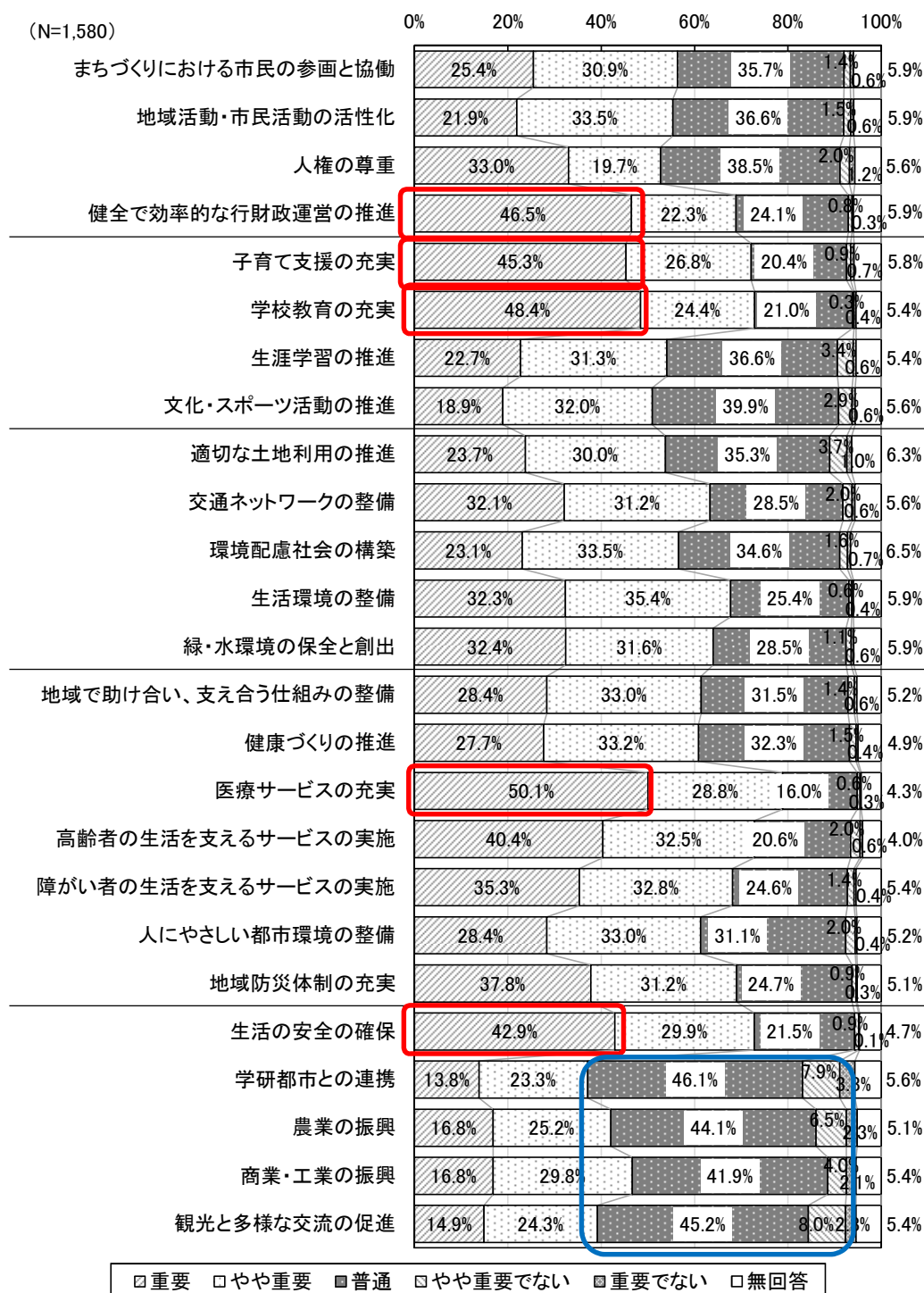
・「市の広報誌、回覧板などによる情報提供と意見募集の機会を充実する」が4割以上と最も多く、  
 ついで「住民説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実する」となっている。「住民  
 説明会など、重要事項に関する直接的な対話機会を充実する」は前回調査から最も多く増加した  
 項目となっている。



### 5. 施策の重要度<問 12>

- ・「重要」という回答がもっとも多いのは「医療サービスの充実」で約 5 割を占めている。次いで「学校教育の充実」、「健全で効率的な行財政運営の推進」、「子育て支援の充実」「生活の安全の確保」、「高齢者の生活を支えるサービスの実施」が 4 割以上となっており、安全や子育てに関する施策の重要度が高くなっている。
- ・「商業・工業の振興」や「農業の振興」、「観光と多様な交流の促進」や「学研都市との連携」といった産業面の施策については、重要度が低くなっている。

図 1 施策の重要度【全体】



## 6. 生駒市の目指す姿の進捗度<問 13>

- ・全体的に前回調査と同じく「どちらとも言えない」といったあいまいな回答が多い。
- ・まちづくりの目標ごとに、『思う』（「そう思う」＋「どちらかとそう思う」）と『思わない』（「そう思わない」＋「どちらかというと思わない」）を比較すると以下のとおりであり、「地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のまち」に関する進捗度が低く評価される結果となった。

市民が主役となつてつくる、参画と協働のまち	・『思う』が多い。
子育てしやすく、だれもが成長できるまち	・『思う』が多い。
環境にやさしく自然と都市環境が調和した、住みやすいまち	・『思う』が多い。
いつでも安全、いつまでも安心して暮らせるまち	・『思う』が多い。
地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のまち	・『思わない』が多い。

- ・「住んでいる地域・地区に愛着を持つ市民が増えている」「安全で安心できる水道を安定して供給している」「地域の医療機関が連携し、市民が安心して暮らせる医療体制の整備が進んでいる」「市立病院が開院され、市民への医療サービスが充実しているとともに、健全な病院経営が行われている」「高齢者が介護予防への取り組みや社会参加を通じて、健康で生きがいを持って生活している」といった項目については、前回調査と比較して大きく評価が上がっている。
- ・一方、「パートナーや家族の妊娠・出産に対する理解が広がり、安心して妊娠・出産にのぞめる夫婦が増えている」に関しては大きく評価を下げている。

## 7. 市民の役割分担状況<問 14>

- ・まちづくりの目標ごとに、『取り組んでいる』（「十分取り組んでいる」＋「取り組んでいる」）と『取り組んでいない』（「あまり取り組んでいない」＋「全く取り組んでいない」）を比較すると以下のとおりであった。

市民が主役となつてつくる、参画と協働のまち	・『取り組んでいない』が多い。
子育てしやすく、だれもが成長できるまち	・『取り組んでいない』が多い。
環境にやさしく自然と都市環境が調和した、住みやすいまち	・『取り組んでいる』が多い。
いつでも安全、いつまでも安心して暮らせるまち	・『取り組んでいる』が多い。
地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のまち	・『取り組んでいる』と『取り組んでいない』が同程度

## 8. 全体のまとめ

- ・ 前回調査からの変化では、定住意向や満足度は高い水準を維持しており、各施策の進捗も全体的に向上しているものと捉えられる。
- ・ 子育てがしやすいまちというイメージが強い本市では子育て関連に関する施策の重要度が高く評価される一方、施策進捗状況では出産・子育てに関する得点が低下している。
- ・ 医療・福祉に関する満足度は比較的高いものの、依然として市民が重要視していることは間違いなく、引き続き取組を継続的に実施していくことが求められる。
- ・ その他、福祉や子育てに関するボランティア活動への参加意向が高まっていることから、上記の子育て関連施策や医療・福祉関連施策に対して積極的な市民にボランティアとしての参加を促していくことが考えられる。
- ・ 20代をはじめとする若い世代の市政への参加や関心が低い一方、直接的な対話を望む意見が増加しており、今後ともこのような市民アンケート調査を継続的に実施するとともに、特に若い市民との積極的な対話にも取り組んでいくことが求められる。